

PROGRAM NOTE

1985

近藤譲：ボンジン

女声、アルト・フルート、コントラバスのための

Bonjin

for Female-Voice, Alto-Flute, Contrabass

タイトルの「ボンジン」は、凡人の意。長年の友人である舞踊家の厚木凡人氏の名から取られている。とはいえ、これはダンスのための音楽ではなく、演奏会用の抽象的な作品である。ここでは、歌詞のない女声は、ひとつの「楽器」として用いられており、その意味で、この曲は、一種の「器楽によるモノディー」である。

この曲でのコントラバスは、ハーモニックス奏法に終始する。私はいつも、コントラバスのハーモニックス音と、アルト・フルートの低中音域、そして女声の低中音域という3つの「楽器」の音色の間に、微妙な類似性と差異を感じている。この曲のテクスチャーには、私のそうした興味が反映している。

1985年に、イタリアの「ポンティーノ音楽祭」で初演するために書かれたこの作品は、同音楽祭のディレクター、ラファエレ・ポッツィに捧げられている。

近藤譲

初演：1985年6月（イタリア セルモネータ ポンティーノ音楽祭）

初演者：平山美智子(声)、ロベルト・ファブリッチアーニ(フルート)

マーク・ドレッサー(コントラバス)

委嘱：ポンティーノ音楽祭（イタリア）

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-36, WER7342-2

演奏時間：8分